“ You ”

西 山 裕 希 子

NISHIYAMA YUKIKO

2015年3月28日［土］— 4月12日［日］

助成：公益財団法人ポーラ美術振興財団、公益財団法人吉野石膏美術振興財団、公益財団法人野村財団

関連トークイベント

session_1

西山裕希子×山本麻友美（京都芸術センタープログラム・ディレクター）

4月4日（土） 16：00〜（75分予定）予約不要・入場無料

session_2

西山裕希子×林田新（京都市立芸術大学芸術資源研究センター研究員）

4月11日（土） 14：30〜（75分予定）予約不要・入場無料

Gallery PARC

GRAND MARBLE

2003年に京都市立芸術大学大学院（染織）修了、現在は同大学大学院博士課程（油画）に在籍する西山裕希子（にしやま・ゆきこ）は、染織をルーツに、蝋纈染などのテクニックを用いた作品制作をはじめ、近年は銀塩写真や鏡、ガラスなどをあわせて用い、インスタレーション的な空間展開を試みています。

『人の関係のなかの、精神的な距離の曖昧さや、揺らぎや緊張、他者へイメージを重ね投影するといった「うつす」ことに関心をもっています。』とする西山は、蝋と蝋の境界に出来る隙間を線として画面に残す蝋纈（ろうけつ）染めの技法を用いた作品制作に取り組んでいました。蝋纈染めにおいて、蝋と蝋の境界にある不確定で見えない隙間（距離）を、線として顕在化させるプロセスは、人と人との間にある曖昧な境界を巡って、その確認と顕在化の行為として作品化されていたといえます。

また、このプロセスにおいて西山は「うつす」へも興味を寄せます。プリントされた既存のモチーフを西山の手によりうつしとるトレースドローイングによる作品は、うつす行為の中に回避し難い僅かな像のズレ（対象との距離）を孕むものであり、西山はこうした「うつす」行為が「人の関係の間にある距離の曖昧さ」へと繋がるものであると捉えています。同時にゼラチンシルバープリントやトレースドローイング、鏡や写真、物質への映り込みや光の反射などを要素に、ひとつの像が別の媒体に「うつる」ことへの着目は、作品の在り方をフレームにより切り取られたひとつの物質に限定するのではなく、空間におけるそれら相互の関わり（距離）へと展開させています。

現在、西山は「うつす」をプロセスに持つ、異なる方法や事象を用いて作品を制作しています。染色（捺染など）では下絵をトレーシングペーパーに、トレーシングペーパーの線を布に、布の線のまわりを蝋でなぞり、蝋の隙間に染料を入れるプロセスを持ち、トレースドローイングは実物の影を平面へとうつすアナログなプロセスを経るもので、そこには「うつす」行為に避け難いズレが含まれます。また、「光が壁面等に映り込んでいる情景／西山自身の姿が影として映っている情景」を中心に撮影された写真は、ガラスに銀塩プリントされ、それらは展示空間の光や時間の影響を受けて見るべき対象を曖昧に変化させ、ガラスや鏡などは展示空間をも「映り込む」もので、そこに鑑賞者を含めた曖昧な関係性をつくりだします。

2012年、2013〜14年にかけてのドイツ滞在を経た発表となる本展では、西山がこれまで一貫して取り組み・深めてきた「人の関係の間にある距離の曖昧さ」への視点をなぞるとともに、現在の主眼のひとつである「うつす」ことへの関心をも垣間見ることができるのではないでしょうか。また、本展会場において鑑賞者は、そこに作品をはじめとする様々な要素を見出し、それぞれの関わりや狭間にある距離を計りながら、いつしか空間そのものをなぞるかのような鑑賞を体験頂けるのではないでしょうか。

西山 裕希子 / NISHIYAMA YUKIKO

statement:

わたしは、人の関係のなかの、精神的な距離の曖昧さや、揺らぎや緊張、他者へイメージを重ね投影するといった「うつす」ことに関心をもっています。この関心をもとに、染織技法の蝋纈染めを使い、蝋と蝋の境界/すき間を線として室内の人の姿やものの形を描いています。また、この作品を制作する中で、光とフィルム、鏡と写真、映像の映り込みや反射など、ある像が鏡や光を通して別の媒体に「うつる」ことに関心をもちはじめ、「うつす」行為に焦点をあてゼラチンシルバープリントやトレースによるドローイングなど、いくつかのメディアを選び制作しています。

2015.03.05

Yukiko Nishiayama

CV:

2015　京都市立芸術大学大学院美術研究科博士(後期)課程油画領域 在籍

2013-14　Universität der Künste Berlin, Professor Leiko IkemuraのもとGuest Studentとして研修

2003　京都市立芸術大学大学院美術研究科染織専攻　修了

助成/在外研修 (Grants/ Fellowship)

2014　野村財団より2014年度上半期芸術文化助成 (公益財団法人野村財団)

2013　ポーラ美術振興財団在外研修員としてベルリンに滞在(公益財団法人ポーラ美術振興財団)

2012　吉野美術振興財団在外研修員としてベルリンに滞在(公益財団法人吉野美術振興財団)

個展

2011　「室内模様」STANDING PINE -cube（名古屋）

2010　「a suite –組曲–」neutron kyoto（京都）〔05、03年〕

「portrait」Showcase/MEGUMI OGITA GALLERY（東京）

2009　「鏡のすき間」PANTALOON（大阪）

2005　「seeing with blind eyes」大阪府立現代美術センター

2001　アートスペース虹（京都）

主なグループ展

2015　「INTERIM SHOW 2015」京都市立芸術大学 新研究棟

2013　”LET US SNOW” Kreuzberg Pavillon, Berlin, Germany

”Rundgang” Universität der Künste Berlin, Germany

「景色替え Scenes Changing」Gallery Hosokawa(大阪)

2012　「京都市立芸術大学博士課程展」京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA

「INTERIM SHOW」京都市立芸術大学 新研究棟内1F.4F

「ART OSAKA」Hotel Granvia Osaka（大阪）［Gallery Hosokawaより参加］

2010　「VOCA展 2010 ー新しい平面の作家たち」上野の森美術館

2009　「ART CAMP 2009」ギャラリーヤマグチクンストバウ（大阪）〔招待参加〕

「第17回 清流展」染・清流館（京都）

「青参道アートフェア」IOSSELLIANI T-02-IOS（東京）

2008　「わざゼミ報告展」京都芸術センター〔2007年よりゼミ参加〕

「P&E」ARTCOURT Gallery（大阪）

「ACG Eyes：映像とドローイングーnarrativeー」ARTCOURT Gallery（大阪）

2005　「群馬青年ビエンナーレ’05」群馬県立近代美術館

2003　「ART CAMP in CASO」海岸通ギャラリーCASO（大阪）

2002　「2002京展」京都市美術館

「entrancement」ギャラリーそわか（京都）

受賞

2004　「第1回現代美術コンクール ー出会い系サイトとしての美術：森村泰昌とともに鍛える、あなたの表現」グランプリ　大阪府立現代美術センター

2002　「京都市立芸術大学制作展」市長賞　京都市美術館

2001　「国際瀧富士美術賞」受賞 公益財団法人日本交通文化協会(東京)

描く方法について：

描く方法として染色技法を用いる理由は、染料を蝋で防染する行為にあります。蝋纈染めは、描きたい線のまわりに、筆で溶かした蝋を布に浸透させ、その蝋と蝋の境界に染料を染み込ませ、蝋のすき間を線として描いています。私はこうした制約となるようなプロセスを伴う方法を選び、その中での表現を試みています。なぜなら、染料という本来水に溶けて滲むものを、蝋を用いてその滲みを防ぎ、蝋と蝋の境界を線として描くことは、私が人の間に起こる関係について考え、目には見えない曖昧な境界を辿る行為を可視化し、流動的な人の関係の一瞬の状態を切り取り、固定するものと考えているからです。

描く対象について：

染色技法による作品《String and Borrow》について、この背景には、捺染プリント(図《愛の寓意,キューピッドとプシケ》1810-20年頃)を引用し、図をパターンに加工した上で色相を変え、染料によって布にプリントしています。そしてこの背景のプリントの上に、弦を緩めた弓の図が描かれています。

これまでわたしは人の姿、主に女性像を描いてきましたが、現在は女性像を描くだけでなく、線を描くプロセスに焦点をあて、像や物を形づくる線自体を掬い上げ描写することを試みたいと考えています。この作品は、背景に描かれている物のなかで、キューピッドとプシケが手にしている弓と弦に着目し、それをモチーフとして描くことを試みています。特に弦に関して、ここでは「うつす(写す)」ことに焦点を合わせ、背景に描かれているとおりに弦が外れた弓を描いています。また、この弦が緩んでいる弓の図像的意味を考え、《愛の寓意》の絵画やキューピッドとプシケの物語が語っている、愛の不成立の意味を重ねることを目的として、一般的にイメージし易いシンボリックな弦が張られた状態の弓ではなく、弦が緩み機能していない状態の弓を選び描いています。

また、現在制作している作品も同様に、背景にトレースにも用いた〈女性が壁に映る男性の影の輪郭をなぞった〉図を引用しており、作品の背景には、視覚的な介在とともに、神話や物語としての意味を介在しています。

介在について：

わたしは染色技法による作品のなかで、描く対象の背景、つまり絵の地であるキャンバスとなる布に、象徴的な図像を用いた捺染プリントの図を引用しパターンプリントして、作品と見るひととの間に介在する存在として扱っています。一方、白い布を背景として描かかれる人の姿やものの形は、輪郭の線が明快に見る事ができます。わたしは布(地)が、鏡のように姿や形をうつす媒体であり、透明な存在であるとともに、「うつす」行為に焦点をあてたとき、キリストの顔がうつされたとされる聖骸布のような、人の姿をうつす媒体であるとも考えています。

また鏡を用いた作品について、鏡は鏡の前にあるものをすべて映しだす透明な存在と考えられますが、その鏡の内部にはっきりと目の見えない人の写真を挿し入れることで、見るひとが「わたし」以外の姿、つまり他者としての像を介在しなければ、自身の姿を見ることができない状況をつくっています。

わたしは、このように「うつる(映り込む)」対象と視線が合わない事や、背景(地)とその上にある像との間で焦点がブレ、対象と距離がうまれることで、逆に対象を見つめることを促すことができるのではないかと考えています。

「うつす」行為について：

ここでわたしの考える「うつす」とは、ある像が別の媒体の上へ転写、描写することです。わたし自身の手によって「うつす」ことを経過することで、像はそのまま転写されるのではなく、僅かなズレやブレをともないます。たとえば、染色技法を用いた作品において、描かれる対象は、線を「うつす(写す)」行為を繰り返すことで、時間の経過によるものとは別の僅かなズレやブレをともないます。

またトレースドローイングの《trace the boundary》は、既存の捺染プリントのパターンを引用しています。このプリントの図は、〈女性が壁に映る男性の影の輪郭をなぞった〉ということが、絵画の起原とされる物語を元にしています。わたしはこの図を、制作に一部を引用しています。なぜなら、図のなかの女性が光を通して壁に映る男性の影の輪郭をなぞる情景と、わたしが染織による制作プロセスの中で、何度もひとの姿の輪郭線をなぞるように描くことの間に、共通するところがあると思い、そこに意味ある一致があるのではないかと思った為です。トレースドローイングは、この〈光を通して壁に投影された姿の輪郭をなぞる姿〉のプリントモチーフを、わたしの手によって「うつす(写しとる)ことによって、避け難い僅かな像のズレが生じ、対象との間に距離がうまれます。こうした「うつす」行為によって、「人の関係の間にある距離の曖昧さ」と繋がる表現となると考えています。

展示作品

01. Light shines into_光の射す部屋
2015　ゼラチンシルバープリント、ガラス

02. a gap between Diana and Venus
2015　鉛筆、ケント紙

03. Silver Particle-window
2015　ゼラチンシルバープリント、ガラス

04. Silver Particle-high exposure
2015　ゼラチンシルバープリント、ガラス

05. Light shines on
2015　ゼラチンシルバープリント、ガラス

06. Light shines through the cloth #01
2015　ゼラチンシルバープリント、ガラス

07. Light shines from the window
2015　ゼラチンシルバープリント、ガラス

08. I look up at the tree, look into the cup, one afternoon
reflection-compact
2013　写真、ガラス、鏡
look into the cup, one afternoon
2015　写真
look up at the tree, one afternoon
2015　写真

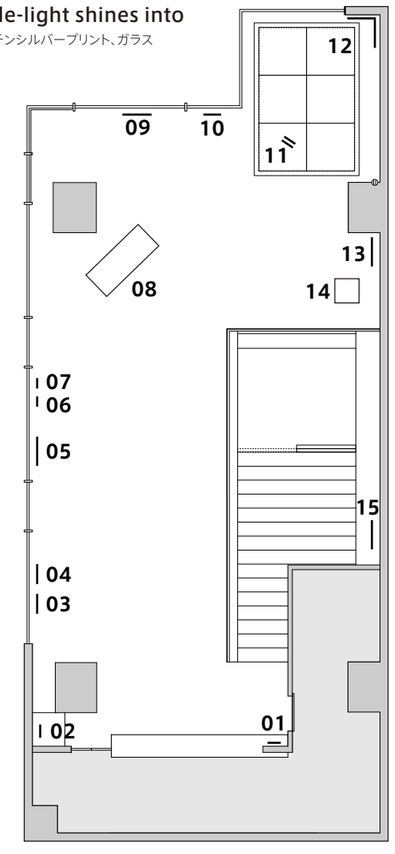
09. Allegory with Venus or Psyche, and Cupid_弓と弦
2015　蝋による防染、染料によるプリント、綿布

10. Light shines through the cloth #02
2015　ゼラチンシルバープリント、ガラス

11. Light angle
2015　ゼラチンシルバープリント、ガラス

12. reflection-mary magdalene
2015　鏡、スライドプロジェクター

13. Trace the boundary-the origin of painting
2015　染料によるプリント、綿布

14. Trace the boundary
2012　鉛筆、ケント紙

15. Silver Particle-light shines into
2015　ゼラチンシルバープリント、ガラス